

佐倉城址公園に発生したキヌガサタケ 2 種

吹春 公子

マダケの筍は、出始めだけでなく、ぐんぐん伸びた先端でもまだやわらかくて食べられる。ちょうど入梅を迎えるころ、筍採りを季節の楽しみとしている知人の話とともに耳にしたのは、「きのこ生えてたよ。」の一言。まさかと思いつつ「ひょっとしてレースついてない？」と問うと、「え、レース？ あー、あったかも。」「！！」私が目を見開いて驚きの声をあげたのは言うまでもない。じつは結構生えているらしい。それも、毎年、だ。こうなると当然「何処どこ、場所教えて！」ということになる。

2つの幼菌の観察を続けた

2002 年 6 月 21 日、少し荒れた雑木交じりの竹やぶに分け入り、バリバリと音をたてながら目的地へ到着。先日のは季節柄すでに腐っていたが、あたりを見回してみると直径 3 cm ほどの幼菌が 2 つ見つかった（写真 1）。

6 月 24 日、斜面の下側に生えていた一本がすでに伸びていた。グレバは新鮮だったが、レース部分はすでに力をなくし、残念なことにだらりと垂れ下がっていた（写真 2、FB 31069(CBM) 標本は千葉県立中央博物館にて保存）。もうひとつは 1 週間経ってもなんの変化もない。もしや腐ってしまったのでは、という思いを抱きつつ観察を続ける。7 月 2 日、雨あがりにいそいそと出かけていくと、雨によってグレバが流されてはいるものの、美しいレースをまとったキヌガサタケ *Dictyophora indusiata* がたたずんでいた（写真 3、FB 31090）。幼菌を見つけてから 12 日目。出会えたものの、なかなかタイミングが難しい。



写真1 キヌガサタケ 幼菌 (円内)



写真2 キヌガサタケ 初夏に発生



写真3 キヌガサタケ 雨を含んだレースは半透明

秋にも出たキヌガサタケ

この年の秋、佐倉市在住の栗田義彦・藤代さんご夫妻より、キヌガサタケが秋にも出ていることを聞く。公園内ではないが、春ではなく秋のみに発生しているとのことだった。図鑑をみるとたしかにキヌガサタケは秋にも発生するとなっているが、千葉県で秋に発生した記録は当時まだなかったため、とても気になった。

2004年10月20日、前日に城址公園内でキヌガサタケが発生、会員さんにより採集（FB 35159）されたという話を聞き、情報をたよりに雨のなか歩き回る。とうとう秋に発生したキヌガサタケと遭遇。残念なことに壊されてはいたものの、標本にとかき集めた。その際、つぼ（たまご）の部分が赤い、レースの網目が粗くパリパリしている、流れたグレバは生ごみが膾えたような酸っぱい臭いなど、前述春に見たものとははるかに違った印象をうけた（写真4、FB 35093）。

マクキヌガサタケではないかなどといわれたが、どうも違うようだ。こうなったら、出るまで待とうほととぎす、だ。

翌年の秋もほぼ毎日周辺を観察

翌2005年、10月に入ってからこのタイプがまた出はしないと、ほぼ毎日同所周辺を観察、ついに10月5日、昨年見たものとまさに同じ成菌完全個体と対面した（写真5、FB 35863）。また、翌日にはこの場から10mほど離れたところに薄赤紫色をした幼菌を見つけた。この不明キヌガサタケの幼菌であろうと直感したが、さて、この幼菌をどうしよう。公園ゆえ人目につきやすい。人に採られるくらいなら持ち帰って培養しようか、などとも思ったが、自然に観察したかったので現場に残し、観察の際はなるべく短時間で終わるようにした。約1週間後、目立った変化はないものの、雨によって草も幼菌も成長してそれぞれが若干動いた結果、草が貼り付いていた部分が



写真4 アカダマキヌガサタケ 残念ながら壊されていた



写真5 アカダマキヌガサタケ レースはとくに粗く、グレバは若干黄色みを帯びる



写真6 アカダマキヌガサタケ、表皮のみがカッターで切ったように裂けていた

はがれ、その下の幼菌の表皮が白いことに気づく。とすると、はじめは白くて、空気に触れて酸化するか、日光に当たって日焼けするなどして色がついてくるのだろう。

葉の跡は日が経つにつれ徐々に濃くなっていった。その後、雨の日や暖かい日など、発生してもよさそうな日が幾度かあったが、まったく成長する気配は見せなかった。10月22日、前日2日ほど観察ができなかったので現場へ急ぐと、一直線にパカッと裂けていた(写真6)。表皮はすこし萎びている。中からのぞくのはまだ白いゼラチン質の膜に覆われたグレバ部分。ついに発生かと思いきや、これまた条件が悪いのか3日経ってもそのままであった。このまま寒さでだめになってしまうのだろうか。

思わぬアクシデント発生！

10月26日、発生現場の方角からイヤ～な機械音。思わず走っていくと、公園管理の草刈りだった。時すでに遅く、全身から力が抜けていった。こんなことなら、金網かなにかで堂々と囲っておけばよかった。いや、掘って持ち帰るべきだったのか…。それでもせめて残骸を、と刈った草をふりながらすべての破片を拾い集めた。しかし、チョンと横にスライスされているだろうはずの幼菌は、なぜか真ん中から縦にも真二つ。そこへ草刈のおじさんが近づいてきた。破片を盛った私の手をみて話しかけるには、「あ～あ、きのこお！」。悔しいことにきのこことわかっていて刈り、さらになんだろうと思って縦に切ったとのこと。器用にも草刈り機で、だ。しかしこれは不幸中の幸い、踏まれたよりははるかにいい。そうだ、まだこれが不明キノガサタケの幼菌が確かめることはできるかも。気を取りなおして持ち帰り、顕微鏡で見ると、柄の両脇にレース部分があるのを確認。不明キノガサタケの幼菌ということがわかった(FB 36104)。しかし、このキノガサタケはいったい何というのだろう。

このキノガサタケは？

同様のキノガサタケを確認している宮崎県総合博物館の黒木秀一さん、筑波大学の

糟谷大河さんに写真を見ていただき検討していただいた。黒木さんより、タイに発生した *Dictyophora rubrovolvata* M. Zang, D.G. Ji & X.X. Liu ではないかというお話をいただき学名で検索、山口県に発生したというアカダマキノガサタケにたどりつく。確かに似ているが…なんとなく違う。ひっかかるのはレースの粗さと質感。佐倉のは目が粗くてハリがあるがこちらは少し細かくてやわらかそうだ。しかし写真だけではよくわからない。結局佐倉の不明キノガサタケはこのアカダマキノガサタケということに落ち着いた。今回、明らかに異なる2種をほぼ同時に見たことが高じて、注意しながら各地の図鑑や図録などを見てみると、キノガサタケと称されているもののなかにはいくつかのタイプが含まれているようだ。とすると、キノガサタケといままで認識していたものには、いくつかが混同されている可能性もあるということではないだろうか。

これは春と同じタイプ？

一方、毎年秋にでるというキノガサタケはどうなったのか。2005年10月5日、1週間ほど前に生えたという乾燥標本を栗田さんよりいただいた(FB 35862)。前年は発生しなかったという。つぼの部分が乾燥によってか赤みを帯びていたが、春に出るキノガサタケと同様の印象をうけた。

さらに10月8日の朝、数本がでていたという連絡をいただいた。当日は談話会の観察会だったが、写真を撮ってもらうため大作晃一さんに連絡し合流、急行する。発生はマダケ林脇にある民家の塀の法面。植物に埋もれるようにして発生していたため、場所を移して撮影した(写真7、FB 35932)。つぼは少し赤みがさしているが白っぽい。レースの目は細かく、錦糸卵のようにスカスカしていて平たい。新鮮なグレバは特有の排泄物臭がし、時間が経つごとに強くなった。



写真7…キヌガサタケ 秋に発生

別の地点でも発生を確認

2006年7月22日、会員の降旗治幸さんが城址公園のまた別の場所でキヌガサタケと出会っていたことを知る。送っていただいた写真(写真8)を見ると、つぼは若干白いものの、レースの質感などはアカダマキヌガサタケに類似していた。グレバは腐った果実臭がしたとのことで、なんと昨年の7月にも同所に発生したとのことだ。ここでは秋にも発生するのだろうか。また、秋に発生した場所には夏も発生するのだら

うか。条件はいったいなんだろう。疑問は次々わいてくる。夏が過ぎて秋も深まり、私は今回どちらのキヌガサタケにも出会えないままシーズン終了となった。そして、観察は来年へ続く。



写真8…アカダマキヌガサタケ、降旗治幸さん撮影

海外旅行の楽しみ 博物館編

吉田 悦子

私の海外旅行のもう一つの楽しみに博物館や植物園に行くことがあります。2006年は個人旅行でオーストラリアのメルボルン(1月)とタスマニア島(3~4月)、ニュージーランド北島(11~12月)へ、バックツアーで英国(6月)に行きました。メルボルンでは王立植物園、博物館、水族館に行きました。メルボルン博物館はForest Galleryという自然史コーナーがお勧めです。館内に生きた植物で森が再現され、生きた動物を間近に見ることができます。じっとしているとカゲがのっそり出てきたり、鳥が茂みに隠れていたり、その展示方法に驚きました。入館料はAU\$6でした。タスマニアではホバートにある王立植物園に行きました。両王立植物園とも広く、美しく、入園料は無料でした。英国のロンドンでは大英博物館にはツアーの見学コースとして、自然史博物館には自由行動の限られた時間内に行ったので、どちらも建物に行っただけという状態でしたが、その立派さには圧倒されました。両館とも入館料は無料で寄付制となっています。次回はゆっくり訪れてみたいと思います。ニュージーランドではオークランドの博物館(NZ\$10)、植物園(無料)などに行きました。